10月　水難事故救助表彰

2件の人命救助に対して三次真一郎市長と内田正行消防長から感謝状が贈られました。

GOLF5カントリーサニーフィールド（野口）のフロントロビー自動精算機前で男性客が突然後ろへ倒れ心肺停止状態となり、近くにいた平野誠士支配人、垰和（たわ）正憲副支配人ほかが心臓マッサージなど交代しながら実施しました。男性客は救急隊到着時には心拍が再開し意識を回復しました。

また、那珂川（野口）では、男性が友人とフリスビーで遊んでいた際、川の中に飛んでいったフリスビーを取りに行き深みにはまり溺れました。付近にいた筑波大学生12人が気づき、そのうちの男性3人が泳いで救助に向かい、協力して河原まで引き上げました。

▲左から二番目　平野誠士さん、垰和正憲さん

▲左から二番目　阿部晃太郎さん、村田秀行さん
佐々木慎矢さん

12/14　常陸大宮市史セミナー　考古編②

市文化センターで常陸大宮市史セミナーを実施しました。これは市史編さん事業の調査内容を市民の皆さんに紹介することを目的とし、全3回の講座を通して本市の先史時代に迫る内容となっています。

第2回は、考古部会の塚本師也専門調査員を講師に招き、「縄文土器からわかる縄文人のくらしと社会」という演題で、縄文土器の作り方や文様の特徴、縄文人の生活などについて講演をいただきました。

農業はまだなく、動物や魚、木の実などを採って食べる生活でしたが、一面では、漆塗りの華麗な道具を作ったり、黒曜石やヒスイなど遠隔地の石材や製品を入手したりしていたそうです。

市内からは「火焔型土器」と呼ばれる土器の仲間が出土していますが、これも遠く離れた越後（新潟県）地域の土器の特徴を持っているとのことです。市内の土器が他地域の土器作りに影響している例もあり、縄文時代にはヒトやモノが意外と広く交流していたようです。

次回は、４月以降に弥生時代に関する講座を予定しています。

▲詳しい内容に熱心に耳を傾けていました

▲間近に見る土器の迫力を感じていました

12/25　南三陸町から感謝状

宮城県南三陸町の佐藤仁町長が本市を訪れ、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の災害復旧のため本市から応援職員を派遣していることについて、三次真一郎市長へ感謝状が贈られました。南三陸町には、平成28年以来、計3人の職員を継続して派遣しています。

また、令和元年台風第19号で被災した本市に対し、佐藤仁町長からお見舞いのことばとともに義援金をいただきました。

感謝状贈呈の後は、南三陸町職員の宮川舞さんから市職員向けに、南三陸町の「観光を手段とした地域活性化」と題した講演がありました。津波による甚大な被害を受けた南三陸町の皆さんが常に前を向き、日々のたゆみない努力で今日の復興を遂げたこと、観光客誘致に力を入れ被災する前より観光客増加に成功したことなど、貴重なお話を聞くことができました。

▲左から佐藤仁町長、三次真一郎市長

▲宮川舞さんによる講演

1/23　小瀬高校が講演会を開催

緒川総合センターで、緒川小学校、美和小学校、御前山小学校6年生、連携している明峰中学校1・2年生とともに、国際的に活躍されているクラウン（道化師）の第一人者である大棟耕介氏を講師に招き、「道化師流　笑顔コミュニケーション術」と題したコミュニケーション能力を育成するための講座が実施されました。

パフォーマンスの披露、ホスピタルクラウン活動のDVD上映後、笑顔のもたらす効果が、病気や怪我の人にも元気が与えられること、目標を持てるようになることなどを話していただきました。

また、夢を実現させるためにも自分の能力を低く思わず、期待から逃げないこと、失敗しても勇気を持って立ち上がることなどを熱く語りかけてくださいました。参加した児童・生徒からは、「何事にも挑戦していくことが大切だと思った」「今日という一日を大切に全力で生きたい」「周りの人が困っている時には積極的に話しかけて、お互い助け合いながら生活したい」といった感想がありました。生徒のほか地域の一般の方も参加しました。

小瀬高校では、体験型の活動を通して、将来にわたって主体的に生きていくための学力の育成に努めています。

▲額に脚立を乗せ、会場からは拍手喝采

▲生徒と一緒に皿回し